

# 学ぶ・語る・出会う

## 社会人ボランティアの声

鈴木 秀夫さん

受講科目

- ・宗教と人間
- ・アクティブラーニングと科学
- ・名著購読「生きがいを考える」

—鈴木さんは去年から受講していただけてますが、きっかけは？

A.依岡先生の『世界の見方』という授業が最初のきっかけだったんですけどね、題名にひかれましてね。今の学生さんがどんなふうに世界を見てるのか知りたい気持ちがありましたねえ。

—実際どうでしたか？

A.そうですねえ。授業の内容が自分が想像していたものとちょっと違っていたので（笑）それは今の宗教と人間でもそうなんですがね。自分はもっと具体的にいろんな事例を学べるのかなあって考えてたんです。でもね、自分が考えてもなかった視点を得られたりして勉強になってると思いますね。

—なるほど・・・その他に大学や授業に対して感じてらっしゃることありますか？

A.やっぱりね、授業によってはもうちょっと学生の人数が増えたらいいなあ。あと、具体的な体験ができるような授業があってもいいと思いますね。やっぱり、今の社会がどうなっているのか、例えば企業はどういう人間を必要としているのかみたいなことを知る機会があるのもいいと思います。それと、人を教えるような立場の人たちは、普通の考え方をするだけはいけないと思いますね。つまり、例外を知ることです。自分の考えとは違ったものの見方があるんだということを知っている必要があると思います。もうひとつ、大学が目指すものがあるなら、ここにいる人たちがそれに向かうことが必要だと思うんですよね。全員が同じ意見になることはないでしょうけど、目指すものをしっかり持って、何より継続していくことが大切ですよ。大学も変わらなくちゃいけない時代になってきているのは事実なんだから、まだ余力のある時に、方向性をしっかり持って実行していかなくちゃね。

—学生に対してはどんな印象を持ってらっしゃいますか？

A.今の学生さんてよくいろんなことを知ってるなあって感心しますよ。この歳になって自分は知らないことだらけだって恥ずかしくなるときがあります(笑) けど、その反面、本当に自分に必要なことを学生さんは知らないような気がしますね。時代も変わったから、社会に出てからの働き方も変わってきて、今知らなくてもいいと感じるかもしれないけど、やっぱり知ることは必要かなって思いますね。知ったらね、そこから学ぼうって気も湧いてくるもんですよ。

—鈴木さんの学ぼうという意欲は何を知ったからですか？(笑)

A.私ね、退職するまで、ほんとに仕事中心にやってきたんですね。いろいろな講演会があったり、受けたみたいなのという講座があっても時間的に難しかった。そうしたらね、定年退職が近づいてきたあたりからこう思うようになったんです。自分はなんて知らないことが多いんだろうって。この歳でそんなことも知らないのかって思うと、今さら学ぶなんて恥ずかしい気持もあるんですよ(笑) でも、それは気にしてたって始まらない。歳は関係ない。知らないことを知ろう。死ぬまで学ぼう！って。そう思ったんです。まさに生涯、学習だってね！

—う〜ん。素晴らしい！でもその学びの継続にはパワーがいるように思うのですが、それはどこから・・・

A.それは、やっぱり人と接触することですね。人と出会って、心というものを分かり合う。いろんな考えがあるだろうけども、一緒にいる人たちがなるべくいいと思う方向に進めるように考える。話を聞く。知ること、そこから本当にパワーが出てくる。だからね、私の信条は、お誘いを受けたら可能な限りお受けするってことです(笑)

自分がいかに知らないかということを知ること。そうすると学びは自然とわいてくるもの。これは何よりも貴重な気付きではあるけれども、いろんな経験や知識を獲得すればするほど難しくなる気づきのように思います。でも「知らないことを知って楽しいことですよ。自然にね、そう思いますよ。」そうおっしゃって鈴木さんにはこやかに笑われました。この自然にね。って言葉。いつの間にこんなに実現困難になってしまったのでしょうか。お話を聞いて、私も自然にわく好奇心の行方を捜したくなりました。  
鈴木さん、ありがとうございました！

6月10日(水) 学生支援室にて